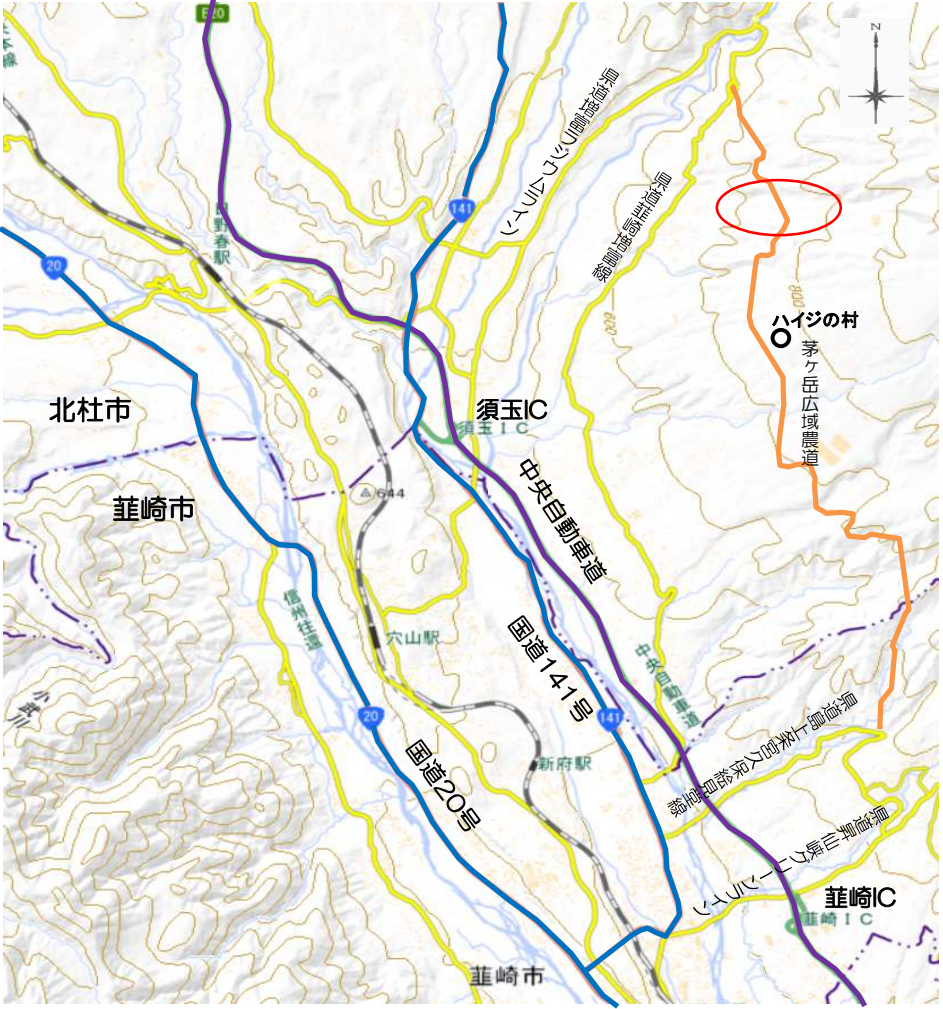


令和7年度 公共事業事後評価調書

1. 事業説明シート

(区分) **国補** 県単

事業名	中山間地域整備事業 [農地環境整備事業(国補)]		事業箇所	北杜市		地区名	天王原		事業主体	山梨県	
(1) 事業着手年度		H24年度		(2) 事業期間		H24年度～R2年度		(3) 完了後経過年数		5年	
(4) 総事業費		2,110百万円									
(5) 事業着手時点の課題・背景						(8) 事業位置図等					
本地区は、茅ヶ岳山麓西斜面の畑地帯に位置し、かつて養蚕を中心とした農業が行われていた。 しかし、養蚕の衰退に伴い桑園が耕作放棄地となっており、有害鳥獣の住みかになるなど優良農地へ悪影響を及ぼしている。 隣接地の畑地帯総合整備事業明野地区では、基盤整備を契機に新規就農者や民間企業等の参入が進んでいることから、本地区においても、区画整理等の基盤整備の実施により、耕作放棄地を優良農地に再生するとともに農地集積を促進し、新たな地域農業の展開を図っていくものである。						 0km 1.5km 3km 地理院地図(国土地理院)を加工して作成					
(6) 事業着手時点で想定した整備目標・効果											
☐ 主要目標 ○ 農業生産力の向上											
☐ 副次目標 ○ 農業用排水能力の向上 ○ 集落間・小規模拠点施設へのアクセス向上											
☐ 副次効果 ○ 遊休農地の解消											
(7) 整備内容(目標達成の方法)											
・ 区画整理		2箇所	A=	32.3ha							
・ 畑地かんがい		2箇所	A=	32.3ha							
・ 水路			L=	1,180m							
・ 鳥獣害防止施設			L=	6,170m							

2.評価シート（1）

（1）事業貢献度 〈(良)・不良〉

（理由）

区画整理や畑地かんがいによる農業基盤の整備により、新たな担い手農業者が確保され、農地環境の保全及び現況農地の生産性の向上が図られた。

①主要目標：農業生産力の向上

指標	事業着手時点数値等	事後評価時点数値等
面積当たり農業所得増加額	—	3,837千円/ha

□評価

農業所得の増加額が、評価基準値2,429千円/haを上回っている。

②副次目標

指標	事業着手時点数値等	事後評価時点数値等
施設老朽度	—	0.17 ※1
用排水能力向上率	—	1.93 ※2
アクセス向上（幅員4m）	0%	100% ※3

□評価

- ・既存施設がなく新設であるため、老朽度は基準値を満たしている。
※1（施設老朽度）＝（使用年数5年）÷（耐用年数30年）
＝0.17 ≤ 1.00
- ・施設整備により通水能力が向上しており、排水機能は改善されている。
※2（用排水能力向上率）＝（計画用排水能力：10.05m³/s）
÷（既存用排水能力：5.21m³/s）＝1.93 ≥ 1.00
- ・区画整理により、本計画エリアの幅員4m以下であったものがすべて4m以上となった。
※3 100% ≥ 65.0%

③副次効果：遊休農地の解消

項目	内容
遊休農地の解消	安定した農業用水の供給や区画整理などの生産基盤の整備により作物別の団地化が図られ、耕作放棄地が解消されている。

④その他の事業効果の発現状況

- ・団地化した区画整理により、大区画農地に農業法人等の新たな担い手農業者が参入し地元雇用につながっている。
- ・安定的に良質な農業用水の供給が可能になったことから、高品質な作物の栽培が可能となり、農家の営農意欲が高まっている。

（2）費用対効果分析の算定基礎となった要因等の変化 〈(有)・無〉

項 目		着手時点	再評価時点	事後評価時点
総事業費		970百万円	2100 百万円	2110 百万円
工 期		H24～H30	H24～H32	H24～R2
経済効率性	評価基準年	H23	H30	R7
	費用	1,155 百万円	2,207 百万円	2,250 百万円
	建設費	1,155 百万円	2,207 百万円	2,250 百万円
	便益	2,717 百万円	5,068 百万円	5,180 百万円
	作物生産効果	2,860 百万円	2,929 百万円	3,050 百万円
	国産農産物安定供給効果	百万円	793 百万円	805 百万円
	営農経費節減効果	百万円	691 百万円	699 百万円
	その他※	△ 143 百万円	655 百万円	626 百万円
B／C※※		2.4	2.3	2.3

※その他は、都市・農村交流促進効果、維持管理費節減効果

※※費用便益比（B/C）は1.0を超えており、経済性は確保されている。

（要因変化の分析）

- ・総事業費：用排水路及び埋蔵文化財発掘調査費等の増による総事業費の増

（3）事業実施による環境の変化

①自然環境への影響

鳥獣害防止施設の整備により農地の荒廃化が防止され、地域の良い農村景観が保たれている。

②生活・居住環境等への影響

なし

③環境保全対策の効果発現状況（措置を講じた場合）

なし

（4）社会経済情勢の変化が事業に及ぼした影響

①社会経済状況の変化

なし

②関連計画・関連事業の状況の変化

なし

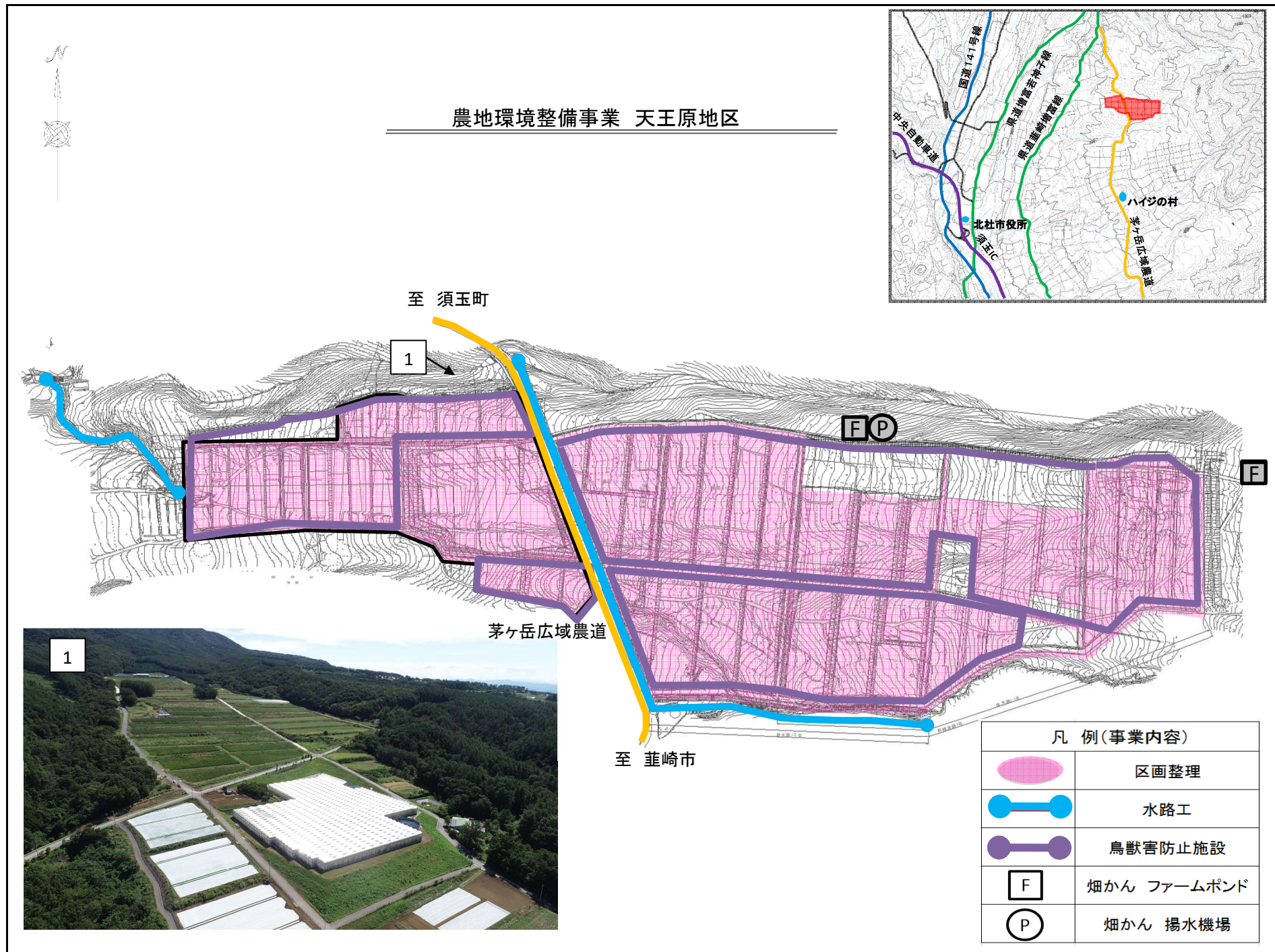
③事業環境等の変化

なし

評価シート（２）

（５）今後の事後評価の必要性 〈有・無〉 （理由） 農地の区画整理と併せて、畑地かんがい、鳥獣害防止施設等を一体的に実施したことで、生産性の良いほ場が形成され営農環境が改善された。 また、農業法人等の新たな担い手農業者による醸造用ブドウ栽培やパプリカの施設栽培も開始され、地域の雇用にもつながっている。 さらに、整備エリア内の大半を占めていた耕作放棄地が解消され良好な農村景観に再生されるなど、見込んでいた効果が十分に発現されているため、今後の事後評価は必要ないと思われる。 □「有」の場合の実施時期及び方法 ・ 時期： 年度 ・ 方法：	（７）同種事業の計画・調査のあり方の見直しの必要性 〈有・無〉 （理由） ・ なし （具体的反映策） ・ なし
（６）本事業における改善措置の必要性 〈有・無〉 （理由） ・ なし （具体的反映策） ・ なし （既に実施した改善策の内容と効果） ・ なし	（８）事業評価手法の見直しの必要性 〈有・無〉 （理由） ・ なし （具体的反映策） ・ なし （９）その他特筆すべき事項 〈有・無〉

3. 添付資料シート（1）



3.添付資料シート（2）

整備前

筆数:568筆
平均区画:8a



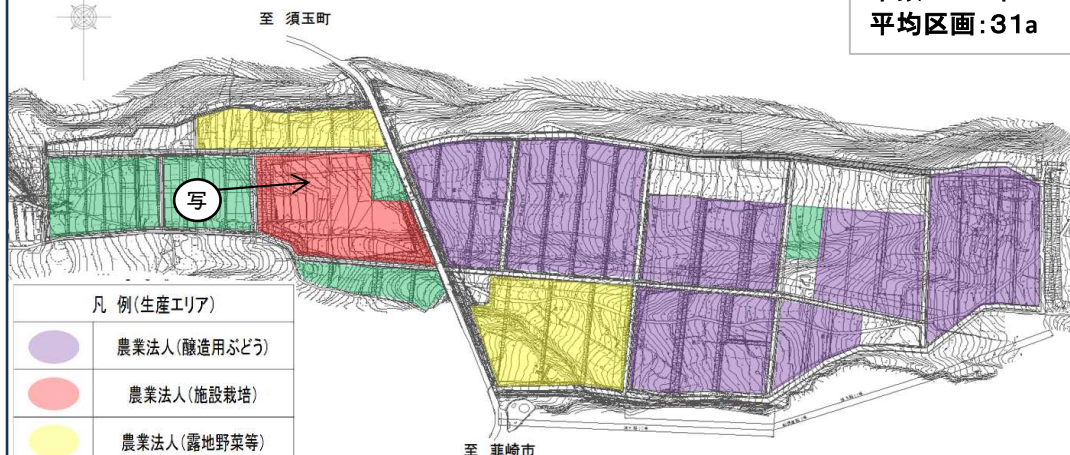
○不整形で小規模なほ場

整備前の地区の状況



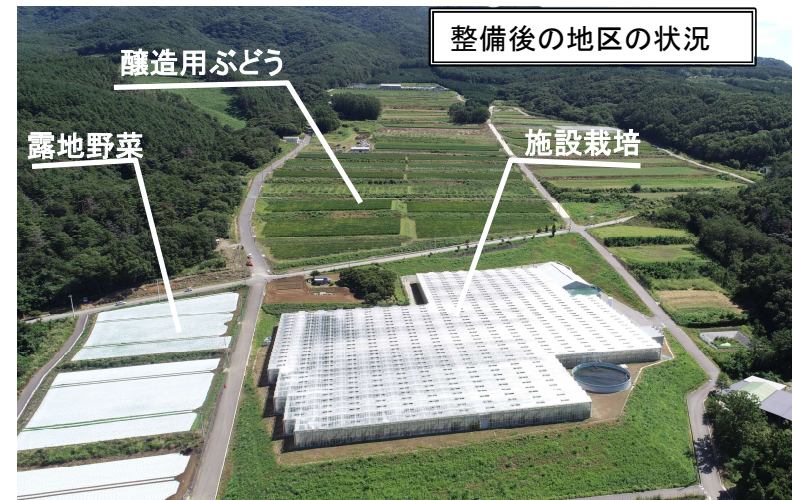
整備後

筆数:123筆
平均区画:31a

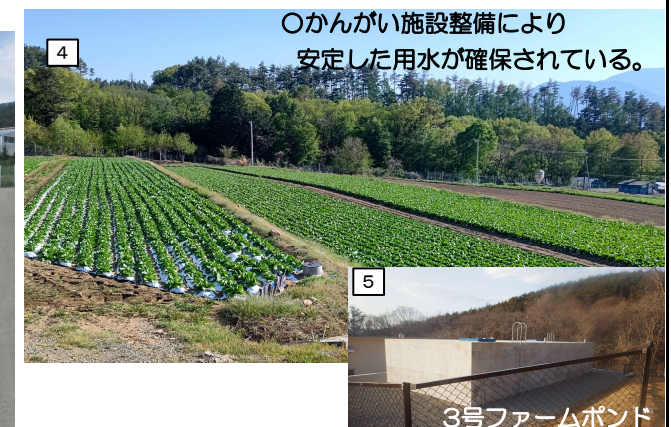
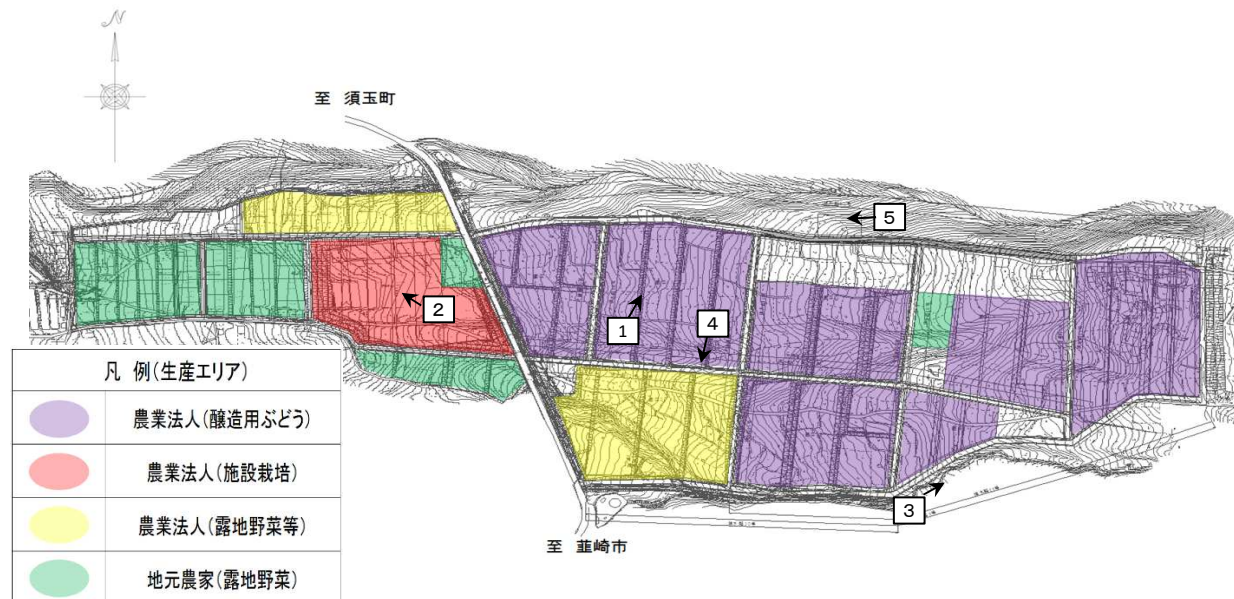


○整備により、ほ場が大区画化し、営農しやすい農地となり、生産性が向上した。

整備後の地区の状況



3. 添付資料シート (3)



○区画整理と併せ、畑地かんがい、鳥獣害防止施設等を一体的に実施したことで、農作業の効率化に加え作物の品質向上、獣による被害の軽減が図られ、営農環境が大幅に改善された。

○現在、大区画化された農地では、農業法人等の新たな担い手農業者により醸造用ぶどうや野菜の施設栽培が開始されており、地域には新たな雇用も生まれている。

○基盤整備により耕作放棄地が解消され、良好な農村景観の再生が図られた。